

| 2016 TDA 海外インテリアトレンドセミナー / COLOR 2016.02.23 |            |             |              |  |
|---|------------|-------------|--------------|--|
|   | heimtextil | DOMOTEX&imm | MAISON&OBJET | 全体傾向   |
| 2012  |            |             |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・透明感、光沢感のある優しいクリアなカラーが、ピンク系やブルー系に登場。</li> <li>・グレーに明るさと色相の幅が出てくる。</li> <li>・色の使い方として、グレーとポイントカラーの組み合わせが登場。</li> <li>・暖色系のカラーの中で、ピンク/イエローが定着して来た。</li> </ul>   |
| 2013  |            |             |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュートラルカラーが中心となり、ピンク系のウォームカラーと、ブルー系のクールカラーが、拡大傾向。</li> <li>・ピンク系は、コラー系へ移行。</li> <li>・アシッドオレンジや、コッパーなどは拡大傾向。</li> <li>・ブルー系は、コバルト/ターコイズまで、色相の幅が広がっている。</li> <li>・グレー系は、色味を帯びたニュートラルカラーへ拡大の兆し。</li> </ul> |

| 2016 TDA 海外インテリアトレンドセミナー / COLOR 2016.02.23 |            |             |              |   |
|---|------------|-------------|--------------|---|
|   | heimtextil | DOMOTEX&imm | MAISON&OBJET | 全体傾向  |
| 2016  |            |             |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年、4展覧会を通しての注目カラーはフォレストグリーンと、アシッドイエローの2カラー。</li> <li>・グリーンは、別荘が主なものから、明度の低い物まで、幅広い。</li> <li>・ニュートラルカラーは、昨年より引き続き多く、1つのアイテムの中にも複数の色相が入る事が少なくなっている。</li> <li>・ブルーは、インディゴと強めのターコイズが、引き続き多い。</li> <li>・昨年のレッド/ピンク系が、オレンジ系にシフトして来ている。</li> </ul> |
| 2016年カラー                                    |            |             |              |   |

|      |  |  |  |  |
|------|--|--|--|--|
| 2014 |  |  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュートラルカラーは、ベーシックゾーンとして、ますます多い。濃色は他のカラーとのコーディネートに使用され、同系色でのコーディネートには、ベージュを含め色相の広がりがあがる。</li> <li>・ブルーは、新色がなくなり濃色に移行。ターコ系は、色味の幅が広がって狭くなる。</li> <li>・コバルト系は、優しく甘い色が主流になっている。</li> <li>・イエローのポイントカラーとしての広がりが、新しく出てきている。</li> </ul>     |
| 2015 |  |  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュートラルカラーは、白黒での使われ方が、多くなり、モダンな仕上がりになる。また、グレー系+イエロー系、レッド系 or ブルー系などの組み合わせが増えている。</li> <li>・ブルーは、インディゴ、ターコイズが多めで変わらず多い。</li> <li>・レッド、イエローは、単独で使われるケースは少ない。</li> <li>・ソフトグレイッシュカラーでまとめのカラーには、ルミナスカラーや、コッパーカラーで、アクセントをプラス。</li> </ul> |

一般社団法人 日本テキスタイルデザイン協会とは

今日、「繊維」が果たす生活への役割は、ファッション衣料やインテリアファブリックスなどの日常的なものはもちろん、航空機・自動車・建築・精密機械・医療・農業・水産・通信・など、限りなく広い分野に及んでいます。このような「繊維」をデザインする行為を通して、次代に引き継いでいくには、複雑に広がった分野を円滑に解きほぐし、知り、歴史・文化・技術・産業など多様な切り口と、生産の側と生活の現場の双方から、その将来の在り方を考えることが大切であります。私たちは、「繊維」という素材=テーマを持ち、ともに「テキスタイルデザイン」を扱う職能分野に生きる個人・法人・機関・に対し、「未来社会」に向かって「豊かな生活文化の創造」を目指し、積極的な発言と行動を起こそうとする気まわりであります。

【後援】

ケルン メッセ株式会社 マットレーディング株式会社 どりーむ編集局  
JMA・ドイツメッセ日本代表部(CeBIT) メサゴ・メッセフランクフルト株式会社

【取材協力】

メゾン・エ・オブジェ 日本オフィス  
有限会社インテリア情報企画